

教育方法等改善研究の計画と経過の概要

石 原 正 也*

1. 研究目的

各大学または各大学間で、教師教育の改善を目的とした多くの共同研究プロジェクトが構成され研究が進められている。その研究は、大学を中心として新しく教授方略（Teaching Strategy）、教授タクテックス（Teaching Tactics）を始め実践的な領域で広く行なわれるようになってきた。それらの多くは、大学の教員養成の立場から見た研究に重点がおかれている。ところで、教師教育による教師の資質向上には、大学における教師養成教育にはじまって退職に至るまでの絶えることのない現職教育の継続という生涯教育としての組織的な教師教育計画の構成が必要である。

とくに、西之園氏は大学の教員養成を考えると、大学での教師教育の立場に教師の一連の生涯教育の延長としての役割をとらえて、その構成を検討する必要性を強く提言している。

一方教師は、大学の教員養成を終了した時点から、各児童、生徒の学習権を保障できる学習指導力が要求される。

このためには、まず大学の教官が、教師の生涯教育としての大学の教員養成がおかれている現在の立場および問題点を明らかにして、大学における教師教育の内容とそれを実施する方法について検討・改善する必要がある。

さらに、教員養成の当事者としての大学と教育現場の教師教育関係者が互いに連絡を密にして、教育方針の一貫性を確保する努力が不可欠である。このため、岐阜県教育センターと岐阜大学教育学部の関係者の有志は、1つの教育研究チームを作り、それぞれが独立な立場に立っての研究を持ち寄り、批判検討したり、問題によっ

ては共同研究を進め、大学教育および現職教育の主要な問題点を昭和55年度から3ヶ年計画で解明することにした。

2. 研究組織

石原正也	総括
高野卓哉	項目ライブラリ作成と調査
野村忠夫	教師教育に対する調査
森 幸雄	授業評価法の開発
太田祐周	教師教育に対する調査・分析
安藤一郎	教授・学習項目の整備
中野刀子	教授・学習資料の構成
後藤忠彦	項目ライブラリ作成と調査
松川禮子	項目ライブラリ作成

教師教育に関する現職者の意識調査および教授・学習・評価項目の作成と指導法の検討

垣見祥心	牧野 潔	加藤正春
稲葉 一	子安一徳	小林秀臣
山田克美	松岡 博	片山鐘一
岩崎 潔	長屋正弘	後藤敏彦
井上志朗	加藤 卓	服部 晃

3. 研究計画

本研究プロジェクトのねらいを達成するためには、はじめの2年間はグループ別に基礎的資料と考えられるものを収集し、第3年目にそれらを総合した形の教育方法等改善、研修体系の確立のプログラムの構成を試みようと考えた。

<昭和55年度>

グループ別の研究をそれぞれ独立に進めるが研究の過程で必要に応じて情報を交流し、それぞれの研究を理解し活用することとした。

研究の方向は大別すれば次の2つになり、それらはさらにそれぞれいくつかに分れて作業を

* 岐阜大学教育学部数学科

を進める。

(1) 意識調査の実施とその結果の分析

大学および現職教育の検討課題を明らかにするために、大学と県教育センターが一体となって、昭和55年度の小学校、中学校、高等学校の新任者、教師歴5年・10年の全教諭の意識調査を行ない、大学教育および現職教育の在り方に対する不満、批判、感想および要望事項、具体的な提言などを集約する。

またこれとは別に、学生にとっては教師教育において大学と教育実践の場を結び、理論と実践とがはじめて交錯する教育実習の場こそが、この研究の手がかりを最も多く与えるだろうと考えて、昭和55年度の実習生全員の実習後の反省、感想と教育実習指導教官全員から実習生の姿を通して眺めた大学教育の在り方、さらには学生が将来教師として生きるための要望などを自由記述形式で求めて、それらの資料を整備し活用をはかる。

(2) 教育実習および平素の教育活動における有効な教授・学習・評価指導資料の作成整理

教科専門に関する知識と教科教育理論を基礎として、教育実習および日常の教育活動で活用できるような教授・学習・評価指導資料を再構成し、教育実践の充実をはかり、それによって教科教育学の体系化と現職教育の具体的な内容整備を試みる。

また、あわせてこれらを用いた教育活動に最もふさわしい教育環境、施設、設備についても考究したい。

このためには、(1)の基礎調査から指導資料の内容、形態などを構成するときの観点、困難点などを明らかにし、それらに基づく指導資料案を試行した実践例を数多く集めることが不可欠である。

このことを数学、理科、家庭、体育、英語の教科について、指導内容、指導方法、学習状態を記録した項目ライブラリの作成とその資料の検索システムおよびその使用法の開発について研究を進める。

また、大学側としては幸いにも昭和55年度に新しく学習システム処理装置が設けられたので、この一連の教師教育の研究にもこれが、十分活用されるように、教育実践研究者の組織作りと研修教育を行なってその研究能力の向上に寄与する。自らにはこれを最大限活用して昭和58年にせまった大学の統合時点には、より整備した教育環境を作り、より充実した教育内容を用意するための積極的、具体的な提言を行ない、そのうち実施可能なものはこれを実行して、上述の願いをより一層確かなものにすることを目的とした。

<昭和56年度>

上記の研究の深化に加えて、基礎資料としては、さらに抽出調査によって教頭、校長職にあるものの意見を集め、(2)の研究成果をふまえた授業設計、指導資料の活用などを教育実習で試行し、これらを用いた教授スキルの基礎的研究によってその問題点を解明する。

<昭和57年度>

前年度までの基礎的な研究をもとに、教育実習前の大学教育および現職教育においてそれらの活用を位置づけ、総合された形での教育方法改善のプログラム構成を試み、具体的な提言を行ない、部分的な試行を継続する。

なお、全教科の項目ライブラリの構成、教育計画の試行などを一大学に限定して行なうことは人的にも経済的にも困難なので、できればこれを全国的規模で検討、開発できるような情報提供に努力する。

4. 研究経過

本研究プロジェクトで昭和55年度に行なった研究経過の概要を次に示す。

(1) 基礎的な意識調査の実施

大学、岐阜県教育センター、現場教師で構成されている本プロジェクト関係者により、教師教育に対する基礎資料を得るため、昭和54年、55年に次のような意識調査を実施し、その結果をデータレポートとして報告した。

(a) 昭和54年度 新任教師の意識調査

採用1年後の岐阜県下の教師全員に対し、教師教育、とくに大学の教員養成と1年間の教職経験について調査を行なった。

調査結果は、

岐阜大学CRDCデータレポート No. 80

新任教師の意識調査(1)

～教職経験1年後の調査結果について～

(1980.3)

岐阜大学CRDCデータレポート No. 82

新任教師の意識調査(2)

～男女による分布状態について～(1980.3)

に報告した。

(b) 昭和55年度 新任教師の意識調査

昭和54年度と同じ調査を昭和55年度も実施しその調査結果を、

岐阜大学CRDCデータレポート No. 90

新任教師の意識調査(3) (1981.1)

に報告した。

(c) 教育実習に関する意識調査

昭和55年度の教育実習後に、本学部^{31)～40)}の全実習生に教育実習と大学の教員養成について、調査を実施した。その調査結果は、

岐阜大学CRDCデータレポート No. 88

教育実習に関する調査の結果(1) (1980.9)に報告した。

(d) 在職5年、10年目の教師の意識調査

在職5年、10年目の岐阜県^{31)～40)}の全教師に、大学の教員養成、新採用者についての教師教育から見た問題点についての調査を行なった。その結果は、

岐阜大学CRDCデータレポート No. 91

在職5年目教師の教員養成に関する意識調査(1)～新採用者の教授活動の問題点について～ (1981.1)

岐阜大学CRDCデータレポート No. 92

在職10年目教師の教員養成に関する意識調査(1)～新採用者の教授活動の問題点について～

岐阜大学CRDCデータレポート No. 96

在職5年、10年目教師の教員養成に対する意見～昭和55年調査の自由記述内容から～

(1981.1)

に報告した。

(e) 教育実践に関する調査

岐阜県、愛知県の小学校、中学校、高等学校の教師を対象として、教授・学習活動についての意識調査を行なった。

その結果は、

岐阜大学CRDCデータレポート No. 93

教育実践に関する意識調査(1) (1981.1)に報告した。

(f) 教育実習指導教師に対する調査

教育実習校の教師に対し、大学の教員養成、教育実習生についての調査を行なった。(この調査は全て、自由記述で依頼したため、内容別に整理中で、昭和56年度に報告する予定である。)

(a)から(f)までの6種類の調査は全て、自由記述欄を用意し、具体的な意見が多数記述されていて、これらを整理し昭和56年度に報告を予定している。また、カテゴリカルデータ、自由記述、他大学の調査も参考にして、教師教育の問題点の検討を進めている。

(2) 教師教育のための資料の構成とその検討

一連の調査結果から必要と考えられる教師教育用の資料の作成・整備およびその利用方法の検討を行なった。

(a) 教育実践研究報告の整備とその活用法

教育実習生、新採用者など教職経験の少ない者に対する教育実践の情報を有効に提供する方法の開発および資料の整理を行なった。

資料の整理は、岐阜県教育センターに保管されている県下の教育研究の実践報告を中心に行ない、その教育情報検索システムは、カリキュラム開発研究センターの電子計算機を用いて開発した。(この一部は、本誌で報告した。)

(b) 教授・学習・評価指導項目の整備

学習反応を調査分析し、学習特性を明らかにした項目が、教育実習、教科教育の学習設計で提供可能なシステム構成を検討した。昭和55年

度は、理科、数学、家庭科などで、教科内容および学習反応の整備を行なった。

中学校理科、高等学校物理の全単元で指導書が整理され、教育実習生への資料提供が可能になり、愛知県立旭丘高校でその試行・検討を行ない、日本科学教育学会で報告した。

(c) 授業場面、学校生活に関する具体的な資料

教授タクテックスの資料としては、授業場面のVTR記録を多数用意した。(小学校、中学校、高等学校、養護学校などの授業記録)

学校生活に関する具体的な資料として、小学生の1日の生活を登下校、授業、給食などそれぞれの分野についてVTR記録を行ない、学生への資料提供の準備を行なった。

昭和56年度には、(a)、(b)、(c)の各資料について教師教育で試行し、その調査分析結果を参考にし、教育方法の改善を考察する。

この研究には、多数の教育実践研究者(教師)の協力を得て進めている。その現状は、本誌の「教師教育方法改善への教育実践研究者の協力」で報告する。

(3) 教師教育用項目ライブラリ

～教育情報検索システムの構成～

(2)で作成された多数の項目を使用目的に応じて検索できるシステムを、カリキュラム開発研究センターの新学習システム処理を用いて構成した。

この情報処理は、日本語(漢字)処理、マイクロフィルム検索、情報検索(FAIRS)などの機能を持ち、TSS端末から、教育研究に必要な情報が検索処理でき、また出力が、そのまま教育実践できるシステムとした。

(これらについては、本誌で報告する。)

(4) 施設・設備の検討

今回の教師教育に関する一連の調査から、教材、学習者、授業展開に関する指導の方針、基本的な考え方についての資料提供、授業場面に対する具体的な方策についての資料提供が、可能な施設・設備の検討を行なった。

その結果、学習指導計画演習室、教育実践演習室の試案を作成した。

これらは、昭和58年度の統合時に建築される特別教室の一試案の提供である。

教育方法改善研究により、大学と教育現場の教師で組織されたプロジェクトは、目的の達成のために、各分野で共同研究を進めている。

文 献

- 1) 小金井正巳(1977) 教師教育と教育工学(その1), 日本教育工学雑誌 Vol. 2 No. 4
- 2) Masami KOGANEI, Mitsuhiro INOUE, Kunihiro KOGIMA, Kanichiro WAKAYAMA (1978) Perspectives on Closedcircuit Television System for Teacher Education in Japan, Education Technology Research Vol. 2, No. 2
- 3) Masami KOGANEI (1978) Development of a teaching skills training system by for teacher education, 科学教育研究 Vol. 2, No. 4
- 4) 小金井正巳(1980) 教師教育と教育工学(その2), 日本教育工学雑誌 Vol. 4 No. 3
- 5) 小金井正巳, 井上光洋, 児島邦宏, 稲森京子, 葛西英昭, 原健爾, 野田一郎(1980) マイクロティーチングによる教育実習, 日本教育工学雑誌 Vol. 4 No. 3
- 6) 小金井正巳, 井上光洋, 児島邦宏, 若林俊輔, 井上尚美, 横山節雄, 日浦賢一(1979) 教育実習生の教授行動に関する研究--発問の教授スキルの実態と指標-- 科学教育学会年会論文集
- 7) 小金井正巳, 井上光洋, 児島邦宏(1978) 教育実習生の授業の分析とその意義, 教育工学センター協議会研究発表論文集
- 8) 井上光洋, 小金井正巳, 児島邦宏, 星野昭彦, 近藤勲(1979) マイクロティーチングの比較研究 科学教育学会年会論文集
- 9) 小金井正巳, 若林俊輔, 井上尚美, 井上光洋, 児島邦宏, 横山節雄(1979) マイクロティーチングの比較研究, 教育工学センター協議会研究発表論文集
- 10) 片山嘉雄, 近藤勲(1976) 教育メディアの取扱い 訓練の一方式, 岡山大学教育学部研究集録 第45号
- 11) 片山嘉雄, 近藤勲, 佐橋謙(1979) ロールプレイングによるマイクロティーチングのための教室

- システムの開発, 岡山大学教育学部研究集録 第50号-第1輯
- 12) 近藤勲, 片山嘉雄 (1979) 教授スキル習得の一方式, 岡山大学教育学部研究集録 第50号-第1輯
- 13) 近藤勲, 脇本和昌, 佐橋謙, 片山嘉雄 (1979) 教育実習経験者と未経験者による教授技術の弁別能力の差異〜ロールプレイングによる模擬授業の評価にもとづいて〜, 岡山大学教育学部研究集録 第50号-第2輯
- 14) 近藤勲, 佐橋謙, 片山嘉雄 (1979) 教授スキル習得のための教育プログラム (そのI) 〜その開発〜, 岡山大学教育学部研究集録 第51号
- 15) 近藤勲 (1979) 教授スキルの弁別能力育成の一訓練法, 信学技報 ET79-9
- 16) 近藤勲 (1980) 教材開発をくみこんだ模擬授業とその評価法, 日本教育工学雑誌 Vol. 4 No. 3
- 17) 近藤勲 (1979) 教員養成教育における教授技術の習得と評価の一方法, 信学技報 ET78-12
- 18) 近藤勲 (1979) 教授スキル習得のための教育プログラムの一試み, 教育工学センター協議会研究発表論文集
- 19) 松下文夫 (1978) 授業シミュレーションによる教生授業の改善, 教育工学センター協議会研究発表論文集
- 20) 若山皖一郎, 三浦軍三 (1979) 教育実習生における授業観察, 教育工学センター協議会研究発表論文集
- 21) 西之園晴夫 (1976) 記号による教授学習過程の設計方法と現職教員の訓練, 日本教育工学雑誌 Vol. 1 No. 1
- 22) 高山達雄 (1979) 教授スキル学習に関する実験的研究〜問のとり方について〜, 教育工学センター協議会研究発表論文集
- 23) 太田静樹 (1979) 教育実習における観察と授業評価, 教育工学センター協議会研究発表論文集
- 24) 山本隆亮, 川船真義, 吉田一晴, 坂元昂 (1978) マイクロティーチングの効果(4)〜モデリングの効果〜, 信学技報 ET78-10
- 25) 川船真義, 近藤尚, 吉田一晴, 坂元昂 (1978) マイクロティーチングの効果(5)〜, マイクロティーチングの改善策について〜, 信学技報 ET78-12
- 26) 佐伯卓也 (1978) 数学科教育法における〈指導案づくり〉のマイクロティチングの事例研究, 教育工学センター協議会研究発表論文集
- 27) 佐伯卓也 (1979) 教材開発スキルテストとマイクロティーチング, 教育工学センター協議会研究発表論文集
- 28) 土井捷三 (1979) マイクロティーチング用教材の自作, 教育工学センター協議会研究発表資料
- 29) 坂元昂, 藤井清久, 大淀昇一, 撫尾知信 (1977) 簡易型マイクロティーチングにおけるフィードバックおよび評価作業の効果, 日本教育工学雑誌 Vol. 2, No. 3
- 30) 持留英世 (1979) VICS法による教師と実習生の教授行動の比較, 科学教育学会年会論文集
- 31) 岩井勇児 (1977) 教育実習・事前指導改善に関する研究〜問題の所在と研究計画〜, 教育実習・事前指導改善に関する研究 研究報告書 第1号
- 32) 霜田一敏, 伊藤敏行 (1977) 教育実習・事前指導改善に関するカリキュラム研究, 教育実習・事前指導改善に関する研究 研究報告書 第1号
- 33) 鈴木真雄, 佐藤勝利, 今栄国晴, 岩井勇児 (1977) 教育実習・事前指導に関する教師と学生の意識, 教育実習・事前指導改善に関する研究 研究報告書 第1号
- 34) 松田惶, 高橋超, 中野靖彦, 多鹿秀継, 岩井勇児, 松下淑 (1977) 教育実習未経験学生におけるモデル授業の観察様式に関する探索的研究, 教育実習・事前指導改善に関する研究 研究報告書 第1号
- 35) 霜田一敏, 伊藤敏行 (1979) 教育実習・事前指導改善に関するカリキュラム研究, 教育実習・事前指導改善に関する研究 研究報告書 第3号
- 36) 岩井勇児, 佐藤勝利, 今栄国晴, 鈴木真雄, 子安増生 (1979) 教育実習・事前指導改善に関する研究 研究報告書 第3号
- 37) 子安増生, 鈴木真雄, 岩井勇児, 今栄国晴, 佐藤勝利 (1979) 教育実習の現状と改善に関する全国教員養成大学・学部教官の意見調査, 教育実習・事前指導改善に関する研究 研究報告書 第3号
- 38) 岩井勇児 (1979) 学生の実習経験, 教育実習・事前指導改善に関する研究 研究報告書 第3号
- 39) 松田惶, 高橋超, 中野靖彦, 多鹿秀継, 松下淑 (1979) 教育実習・事前指導におけるモデル授業フィルム提示の効果, 教育実習・事前指導改善に関する研究 研究報告書 第3号
- 40) 岩井勇児, 高橋超, 松田惶 (1979) 教育実習・事前指導の教材の開発 教育実習・事前指導改善に関する研究 研究報告書 第3号